

医師に聞く専門性の高い医療
 顔の片側のけいれん・激痛は要注意
 「脳血管が神経を圧迫している可能性があります」



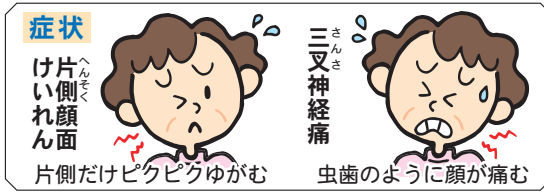
副院長 富永 二郎 先生(月~木担当)のお話
 脳神経外科

「顔面けいれん」とは、目の周りや口元が勝手にピクピクしてくる病気です。顔の左右どちらか片方に起こるのが特徴で、「片側(へんそく)顔面けいれん」ともいいます。初めのうちはあまり気にならない程度でも、徐々にひどくなる場合があります。ひどくなると、人前でしゃべると、緊張したり、ストレスを感じたときにすぐに起こるようになります。あまり知られていない病気のために、長い間我慢してしまうと、なかなか改善しません。そのことでさら

にストレスが加わり、精神的に鬱病のような状態となる方もいます。けいれんの原因は、動脈硬化などによって脳の血管が曲がり、顔面の動きを司る神経を圧迫するためです。人によっては薬物治療が非常に効果的です。クロナゼパムというお薬がよく効きます。お薬が効かない方や、薬アレルギーなどで内服できない方は、顔面にボツリヌス毒素を注射する方法もあります。効果的な方法ですが持続性がないために、薬の効果がきれてくると再び注射が必要となります。また外科的治療として、手術で血管と神経の圧迫をとる「減圧術」があります(図)。これは非常に効果的で、およそ90%の方が、術後、薬や、注射が不要となります。また、非常に耐えがたい顔面の激痛に悩まされる方がいます。これは「三叉(さんさ)神経痛」という病気です。こちらも通常、顔の左右どちらかの激痛です。歯を磨いた時や、

顔面の激痛が脳血管の病気であるというのは意外に思われるかもしれませんが、これらは脳腫瘍や神経の炎症が原因のこともありますので、症状のある方はMRI検査を受け、専門医に相談されることをお勧めします。今回は「脳梗塞は夏に多い？」です。

*富永二郎 / 1991年東海大学医学部卒。医学博士。日本脳神経外科専門医。日本脳卒中学会専門医。



取材協力
 医療法人 財団報徳会
西湘病院
 院長 原 俊介
 小田原市扇町1-16-35
 ☎0465-35-5773
 http://www.seishou.or.jp